

資料 1955 年 4 月 22 日～5 月 6 日春季搜索行-今井喜久郎著

遭難事件以来早くも 100 日以上を経過した今日、雪解けを文字通り首を長くして待っていたが待ち切れず、4 月下旬から 5 月上旬にかけての連休を利用して捜査行としては初めての大舞台からなる山行を試みる事となった。準備は 3 月中旬まで入院していた澤田の退院を待つてさっそく実行に移された。

計画としては、主として学生会員からなる先発隊が荷揚げ、テント設営、偵察などを行うのを待つて、後発隊が到着次第搜索を本格的に行なおうとするものであった。

思いがけぬ多大の残雪と、相次ぐ新雪のため行動ははかどらず、やむなく引き返したのであったが、その行動記録を当時の日記と記録をもとにしてつづってみることにしよう。

4 月 23 日

東京より石原國利・黒田・石田の 3 名、三重大から南川・滝川・常保・小坂・今井の 5 名、各々夜行にて松本に向け出発する。

4 月 24 日(曇のち雨)

早朝、松本駅に着き合流する。共同装備、個人装備を合わせて百貫(375kg)を超過している荷物を円滑に荷揚げするため一応島々まで電車で行く。島々到着後、深山荘の方とも相談した結果、小雨がパラつき始めたことも手伝って、ハイヤー 2 台を連ねて行ける所まで行くことにする。途中で難航した箇所もあったが、警察署・沢渡西村屋・養魚場ご主人宅・坂巻温泉等で冬の御礼方々入山の挨拶をしながら、11 時頃に中の湯まで到達する。前日は坂巻までしか行けなかったそうであるが…松本タクシーの運転手さんと愛すべきフォードに心から感謝する。中の湯ト伝の湯にて見越からいただいた心尽くしの御弁当で昼食を済ませ、ようやく本降りになってきた冷たい雨の中を上高地目指して登る。夜行の疲れと平均 12 貫(45kg)以上という重い荷も手伝って全員帝国ホテル着が 15 時頃であった。この雨の中を奥又白出合まで直行するのは身体を弱らせるだけだと思い、ホテルで泊まることにする。

4 月 25 日(晴)

昨日の雨が夢かと思われる位に素晴らしく晴れ上がった。冬からの残置物・今回の荷揚げの品々を各キャンプ別に梱包し直し、北国研究所の御厚意による快適な背負子にそれぞれ 8～9 貫の荷をつけて河童橋を渡ったのが 11 時頃であった。養魚場手前の明神橋が流出しているとの話だったので、梓川右岸の道を渡って行く。12 時 30 分養魚場に到着冬からの残置物を加えたりし、昼食を済ませて 13 時 30 分出発し、奥又白出合にて泊まる。

4 月 26 日(晴)

昨日に続いて快晴に恵まれる。目が痛くなるような紺碧の空にくっきりと線を描く前穂高の峰々が今更のように美しく感じられる。さて、本日からいよいよ本格的に行動を開始する。8 時 45 分、石原國・南川・石田・滝川の 4 名が奥又白池へ、9 時、ホテルに残置した荷物のボツカのため黒田・常保・小坂の 3 名が各々出発する。池へ向かった 4 名は中畠新道を通り、池到着後(12 時 40 分)、冬からの残置品を掘り出し、テントを乾かしたり整地をしたりして 16 時 20 分に出合テントに帰る。やや遅れてホテルへ下った 3 名も帰る。全員出合にて泊まる。

4 月 27 日(雨)

風雨強く荷揚げ中止。午前中は荷物の整理などして過ごしたが、午後は退屈しのぎにと対岸へ直行できるように橋をかけることにし、流木を集めて 2 時間余りかかって成功する。名付けて"すきやまばし"と言う。

4 月 28 日(晴)

やや風が強かったが荷揚げには差支えることはない。9 時 20 分、石原國・南川・石田・滝川・常保・小坂の 6 名、池の荷揚げに上がる。池にてテント一張り設営し、雪洞をも併せて作る。10 時 20 分、石原一郎出合に到着し昼食後 11 時 40 分、池へと上がる。滝川・常保・小坂テント設営後出合に下る。今夜からキャンプが池と出合の二ヶ所に分かれる事になる。明日からは池では搜索を始めるだろうし、今夜は後発隊が名古屋を出発している筈であるから、ようやく行動も軌道に乗り出した事を感じる。しかしながら如何にも残雪の多いのが唯一の気がかりである。明日からは毎日幾人かが、出合～池間を往復する事になる。

4 月 29 日(曇のち晴)

(池)石原國・南川は A 沢經由三本槍より第二テラスを観察するも何ら発見に至らず帰る。午後、石原國・石田は B 沢上部搜索するも発見するものなし。途中より雪となり、視界きかず 15 時 30 分、池に帰る。

(出合)黒田・今井、後発隊との連絡のため下る。ホテルまで下るも(12 時)未到着のため中の湯まで下る。後発隊は石岡・松田・北川・長谷川・太田・島塚・若山富雄・若山英太・鈴木・大橋・山北・青木・吉川の 13 名からなり、15 時 30 分ホテルに着き泊まる。

4 月 30 日(晴)

(池)後発隊到着に備えてテント二張り設営する。

(後発)8 時過ぎ石岡以下 10 名ホテルを出発し、出合にて昼食後、池へ向かう。荷揚げのため同行した滝川・黒田・常保 17 時 20 分池より帰る。鈴木以下 5 名は坂巻まで下り、昨日残置せる荷物を持ち 19 時 10 分出合に来る。後発隊の到着にて池テント 9 名となる。

5月1日(雪のち晴)

池にて約 40cm の積雪を見、出合にても一時は真っ白になる。午後は晴れあがったが大橋以下 3 名がホテルへボッカのため下っただけで、残りの者は休養日とする。

5月2日(晴のち曇)

出合より長谷川以下 9 名池へ荷揚げのため上がる。池より石原一・松田・石原國・南川、6 時に出発する。石原兄弟・松田 V 字状雪渓より第二テラスへ達するも、積雪多く且つ雪の状態極めて不安定なるため、搜索を中止して稜線にて待機中の石田・南川と共に 15 時 40 分、池テントに帰る。伊藤・室・高井・森、出合にて昼食後、12 時 15 分池へ向かう。午後やや遅れて新井出合に到着する。滝川、養魚場までシュラフザックを取りに下る。16 時 30 分荷揚げを終えて前記 9 名、若山兄弟と共に下って来る。若山英・滝川・今井は石岡よりの手紙持ち、西糸屋へ北穂会の方々の応援を頼みに下る(17 時)。小山氏他に快く引き受けるとの返事いただき、ホテルにてスコップ 4 丁拝借し 21 時 30 分出合に帰る。

5月3日(曇のち雨)

出合より新井以下 6 名池へ上がる。太田・大橋ホテルへボッカのため下る。池テントより石原兄弟・室・松田・高井・森・南川・石田の 8 名、第二テラスに向い全員にて第二テラスの発掘作業行方も雪量膨大なるため遅々として進まず、第二テラスでの搜索を断念する。テント帰着は 18 時であった。伊藤が心配して途中まで迎えに上がって来る。午後北穂会の小山・小松・太田・平沢の 4 氏が池に到着される。出合より若山兄弟・山北・服部・小坂ホテルへ泊まりに下る。

5月4日(雨)

出合より新井以下 5 名池へ上がる。ホテルより小坂上がって来る。しかしながら、朝より雨降り、ガスに包まれて、搜索続行不可能なため、搜索は打ち切られ、池テント(14 時)、出合テント(14 時)、各々撤収し全員ホテルに下り泊まる。

5月5日(晴)

再び素晴らしいまでに晴れ上がったが、荷物整理のため石原國・石田・新井・南川・滝川・黒田・長谷川・太田・常保・今井の 10 名を残して、全員夜行にて帰途に着く。

石原國・石田の 2 名養魚場へ行き挨拶方々荷物の整理をしてくる。他の 8 名は装備の整理のため遅れ、先記 2 名と共に坂巻まで下り泊まる。

5月6日(晴)

坂巻 11 時発のバスにて上記 10 名帰途に着く。松本にて東京に帰る石田・石原國と別れる。春期搜索行ここにむなしく終わりを告げる。

春期捜索行行動表

1955.4.23 ~ 1955.5.6

月・日・天候	ホテル 人数	出合 人数	地 人数	備 考
4. 23 (曇)				名古屋 22.40 弁長 野行にて 5名 弁 新潟 22.15 弁長 野行にて 3名 弁
4. 24 (曇 後雨)	8			8名にてホテルおむ荷場受了 (15.00)
4. 25 (快 晴)		10.00 (8) 15.30 → 8		8名にて出合おむ荷場テント設営 部隊長 野行にて 弁 (15.30)
4. 26 (快 晴)	1	11.45 (3) 9.00 → 8.45 (4) 12.40 12.50 17.50 8 4.25 15.20		部隊長 ホテル 着
4. 27 (曇 雨)	1			雨のため停滞
4. 28 (晴 月曜)		9.20 3 12.30 → 9.20 3 12.30 16.20 14.40 → 11.40 14.30		名古屋 22.40 弁 後 弁 13名 出 弁 地テント設営 部隊長 地へ
4. 29 (曇 後晴)	15	12.00 (2) 9.50 → 5 8.15 (5) 11.00 12.30 16.30 → 12.30 (3) 16.30 8.15 (5) 11.00 17.20 16.30 →	4 4	8.30 (3) 12.00 (2) 13.10 15.30 捜索開始 (4名) 三本橋まで 後 弁 ホテル 着 (15.30)
4. 30 (晴)		8.15 (5) 11.00 12.30 16.30 → 12.30 (3) 16.30 8.15 (5) 11.00 17.20 16.30 →	9	後 弁 5名 地へ 8名 出合へ 5名 彌巻おむ残り出合へ
5. 1 (雪 晴)	4	11.00 (3) 19.30 13	9	雪のため停滞 雪止車を4名 野行にて (1名 名古屋 弁)
5. 2 (晴 後曇)		11.00 (5) 15.30 12.15 8.00 (9) 16.00 (2) 19.30 18.15 17.00 20.00 21.25 16	11	最後 弁 4名 地へ 1名 出合へ オニテラス 捜索 (5名) 3名 ホテルへ 連絡に 降
5. 3 (曇 後雨)	4	11.00 (4) 15.30 8.30 (6) 14.25 6.40 (8) 18.00	15	オニテラス 捜索 4名 ホテルへ 降 北稗会 4名 地へ
5. 4 (雨 後晴)	23	11.00 (3) 15.30 9.00 (5) 19.00 (14) 15.30 (15)		1名 下山 全テント撤収 3名 西条 屋泊
5. 5 (快 晴)				16名 下山 10名 片岡4名の後 彌巻 泊
5. 6 (晴)				全負帰宅 合宿 終了

遭難事件以来早しも百日以上経過した今日雪解けを又々通り
り首を長くして併走は行ないたが四月下旬から五月上旬は雨の連休を利
用して捜索行とははじめの大部隊から少し行て故郷に帰ることにした
準備は三月下旬まで入院していた決まり退院を行な早速^{ついでに}帰
した。石原一郎^{捜索隊}とていふ岩稜会十三名、三重大学山部、五名、
津島高の五名、五名、その他三名からなり、二十名より多人数に及ぶ予定で
あった。捜索行の計画は主として学生会費を中心とした先鋒隊が荷場
、テント設営等を行なうのを併走後援隊が到着次第捜索に携わるとい
うことである。思ひがけぬ、残雪も新雪のため行動ははかばかす止まなし
引返したのびあつたがとう行部記録を当時の日記と記憶をともに
綴つて見よとにしよう

四日壬子日新宿弊三三五長野行はる原¹²石田、里田の東京より
生野隊三名、名方生野三三三長野行はる原、今井、荒川、常保、小坂、
三重元よりの生野隊五名勇躍松本へ向けお参す。

四月十四日 名方屋敷の五名は三回、大東家等の三名は一回、夫々
松本駅に着き、今校す。柳岡、個人悲備、今先百貫を輕と示さ
し、~~柳岡~~所物を田舎に荷揚げすべし。一応島を以て電車に行き
馬を到着後、深山並、人も相談を結果、小雨かばうつまは
めたをも平伝つてハイヤー二台を連れ、行きは所まで行くとす。

途中をやつ蘇行に在りしもあるが、~~中~~警察、西村屋、養魚場、
銀座、一宅、坂巻、昇^ウ利乳をかねて探検したか、十一時頃の中
湯まで到着す。前日までは坂巻から行かなかつたさうであるが、
シーの運をたふ愛すべくフォートにかゝる感^カず。中之湯ト伝湯に
二見越がう載るに要さう。御斗島は二腹びらう之をし、やうやく降
にたる来た冷たい雨中を今夜の泊り場、~~中~~目指して登す。

全員夜行より遅れし平均十二貫以上という重き荷物も手伝つて
 船乗金に負ふ事し着る午後三時少し前位であつた。いよいよ雨の中も重
 荷でもつて出合まで直行する事は体を弱くすべしと思ひし事し船乗する。
 四日二十七日(快晴) 昨日の雨が雪であつたと思はれし位。未晴多し。冬
 には冬。冬は冬の残置物又今日の荷揚げ品も各々テマに梱包し直し
 北口研所所り御好意にまゝ此貨物屋に入貫から九貫つたり荷をかつて新
 産橋で積つたりが十一時頃であつた。養魚場手前より明神橋の流氷し
 いふりおちたつたりと梓川に右岸の道を通る行し、十一時十分養魚場
 に着る。荷物も少くつ加えたりし雨に梱包を行ひ、書合を済ませ十一時
 半出陣し奥又白出合に細い。テマは今日より来た二つて取敢て使用する。
 四日二十七日(快晴) 昨日に引続き。未晴多し。快晴に恵まれ。目痛
 くなりまう。紺碧の空にくもりと線を描く前穂の積線が今更けように
 美しく感じられ。ヤエ本日はういよく本格的な行動開始であつた。
 八田山分。石原。石田。南川。滝川の四名が又白地へ出陣す。●同じく此所
 本心に残置す荷物の木ウカたり墨田。常保。小坂の三名が下へ降りし。
 地へ向つた四名は中田。新道を通り又白地到着後(十二時)冬に残置品
 を振り出し、テントを乾かたりし。整地作業を行ひ、出合へ帰り(十六時)
 やつて遅れ本デムへ下りた三名も帰り八名も出合で細い。
 四日二十七日(曇。雨) 雨風強し荷揚げ中止と決め。午前中は荷物の
 整理作を行ふ道にわたが、退屈しきり午後役から新岸へ出合から
 直行出来。よるに橋をかきしきし流氷を築めし三時内余りど木
 橋口成切す。名付けしすもや橋という。
 四日二十八日(晴) やつ風が強かつたが新場には大して差支ない。こはな
 れし。石原。南川。石田。滝川。常保。小坂。八名地へ荷揚げす。

池に下りて張設當し雪洞を併せ作る。今日各部降参出合は到着し
津島常保、小坂、下谷、後出合へ下る。今日から雪が止み、池へ上る。

池に下りて張設當し雪洞を併せ作る。今日各部降参出合は到着し
津島常保、小坂、下谷、後出合へ下る。今日から雪が止み、池へ上る。
明日からは池で捜索を始める。今夜は雪が止み、池へ上る。
池に下りて張設當し雪洞を併せ作る。今日各部降参出合は到着し
津島常保、小坂、下谷、後出合へ下る。今日から雪が止み、池へ上る。
明日からは池で捜索を始める。今夜は雪が止み、池へ上る。
池に下りて張設當し雪洞を併せ作る。今日各部降参出合は到着し
津島常保、小坂、下谷、後出合へ下る。今日から雪が止み、池へ上る。
明日からは池で捜索を始める。今夜は雪が止み、池へ上る。

四月二十九日(曇後晴)

(池)石原は南川はA須経由三本橋より中ノ谷へ向ふ。何れも発見に
到着す。午後石原は石田はB須上郷捜査す。発見す。午後、
中ノ谷より雪を降し、祖界まで十五時五分帰る。

(出合)金井黒田、後参隊より連絡のため下り、木下まで十時。未だ
到着せず。中ノ谷まで下り(十五時)。後参隊は石田、松田、比川、長谷川、
太田、島塚、若山、若山、鈴木、大橋、山北、青木、吉川の十三名、
十時三十分木下に着き、泊る。

四月三十日(晴)

(池)下りて後参隊到着し備えし二張設當す。

(後参)八時迄石田以下名出参し出合(十五時)に候へ池へ向ふ。

津島黒田、常保、荷揚、若山、若山(十七時)池より帰る。

津島、黒田、若山は酒巻まで下り、昨日残置す荷物も荷揚げし出合
まで来る(十九時)。後参隊到着し出合十三名、池九名となる。

五月一日(雪後晴)池に約四時、出合に二時。昨日は雪が止み、池へ上る。
午後、雪が止み、池へ上る。津島、黒田、若山は酒巻まで下り、昨日残置す荷物も荷揚げし出合
まで来る(十九時)。後参隊到着し出合十三名、池九名となる。

五月二日(晴夜曇) 出合より長谷川・太田・小坂島・鈴木・山北・服部
大橋・吉川池へ荷揚げせし。池より石原兄弟・松田・石田・南川之所に
出合す。石原兄弟・松田・山北・服部・鈴木・吉川池より又には運送するも積荷
量多敷外に望し、且つ雪の状況極めて不安定なる爲、積荷を中止と
積荷に荷役中より石田・南川と共に三四セントは帰す。社倉・長森・
高井の四石出合より重食後二十(五)池へ到着す。午後やつて遅くは新
井出合に到着。澁川・釜魚場より三つを取りに下り。十九時三十分荷場の
向うに生れたる若山兄弟とも下る来。彼等が気遣いとの報告を
聞し、若山兄弟・今井・澁川はバカスより手紙附き西米屋へ下り此後金の
方々に応援を頼かに下り(十七)。小山氏池に快下し引受けより御
返事載せ、ホテニはスツプ四イ料措し、二十時三十分出合に帰す。
五月三日(曇夜雨) 出合より新井・澁川・山田・常保・山北・服部池へ上。
太田・大橋・ホテニへ下り。池テントより石原兄弟・室・松田・高井・森
南川・石田の八名中ニテラスに向ひ、全負に中ニテラスより登坂作業行つて
雪量が大なり爲、厚くして進まず、中ニテラスでの積荷を断念す。
テント帰着中八(五)社倉へ配し途中まで迎へに来す。午後北穂会
より小山・太田・小松・平沢の四氏応援を爲池に到着す。出合より
若山兄弟・山北・服部・小坂・ホテニへ泊りに下り。

五月四日(雨) 出合より新井・長谷川・若山・鈴木・吉川池へ向う。
朝より雨降りかたに回ると積荷後行不可能なため積荷を中止し
池テント(十時)出合テント(十四)まで撤收し全負ホテニに降り。

五月五日(晴) 荷物整理のため石原・石田・新井・南川・今井・澁川・
長谷川・山田・太田・常保より十石七銭を全負夜行に帰す。

石原・石田の二名、釜魚場へ探検者の荷物の整理に来す。

支那十石は整備の整理後坂巻まで下り。

五月六日(晴) 十一時弁飯に上り十石を下り春期積荷を行役す。

(後記) 捜索が成功に終る。いふは、さうなる事は考ふまでもない事であらう。不

ナガバットにも此心を不明瞭な事態を引起した事を記され、

わけは行のなり。雪の中は眼の肉親の雲を思ふ御兄弟の気持をばかり

す。位分るいふ事あり、そのために無理に知テントをよる。戴いたり

ふ。いふは、いふ事も事故が起るはかつたか。よるもの。若し何れか

ふ。いふは、いふ事も事故が起るはかつたか。よるもの。若し何れか

ふ。いふは、いふ事も事故が起るはかつたか。よるもの。若し何れか

ふ。いふは、いふ事も事故が起るはかつたか。よるもの。若し何れか

ふ。いふは、いふ事も事故が起るはかつたか。よるもの。若し何れか

ふ。いふは、いふ事も事故が起るはかつたか。よるもの。若し何れか

ふ。いふは、いふ事も事故が起るはかつたか。よるもの。若し何れか

ふ。いふは、いふ事も事故が起るはかつたか。よるもの。若し何れか

ふ。いふは、いふ事も事故が起るはかつたか。よるもの。若し何れか

ふ。いふは、いふ事も事故が起るはかつたか。よるもの。若し何れか